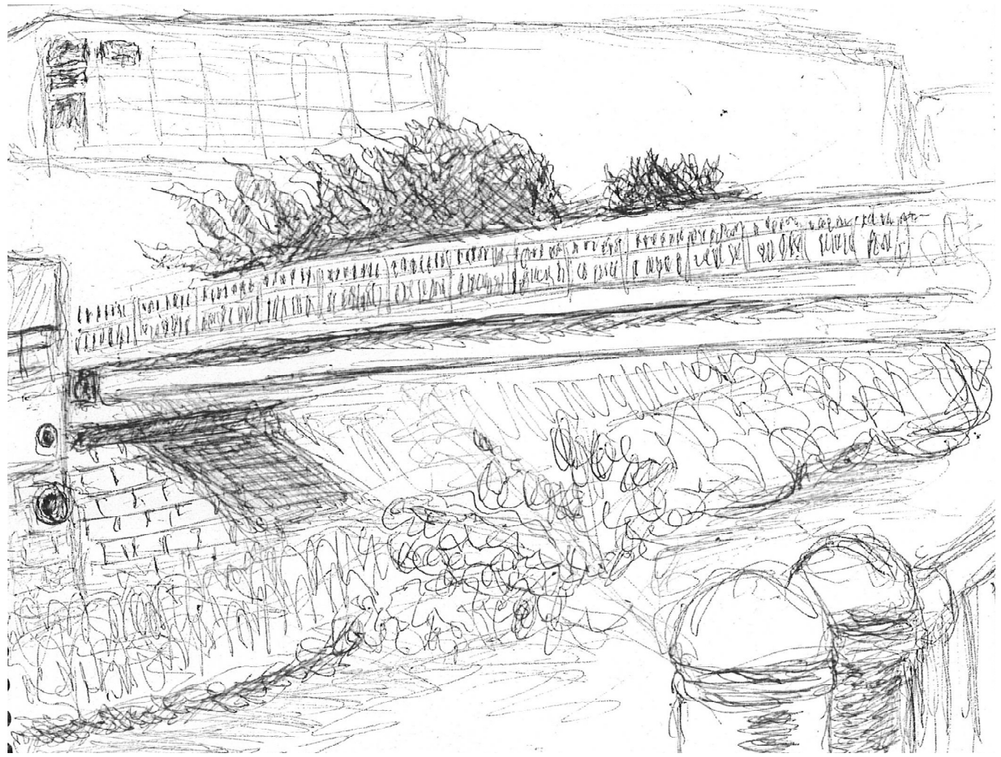
# いたちかわらばん

通刊 88 号　鼬川・独川 / 川原番・瓦版　'22 春号



【ペン画　宗森英夫】

## いたち川周辺で出会う桜に想う

新型コロナウイルス感染の影響で世界的に人々の活動が変化していますし、自然界は気候の変化に敏感に反応しているように感じます。2020 年の春から外出を制限される日々が続く中、お花見もマスク着用、人との距離を考えて…等、楽しみ方も工夫が求められる状況です。

今年いたち川周辺の桜はどうでしょう。咲き始めている花も見られます。川辺にはソメイヨシノ、オオシマザクラ、ヤマザクラが多く、夜にライトアップされる区役所近くの景観は見事です。珍しい桜として漢字で書かれる横浜緋桜、枝垂れ桜、十月桜（年に 2 回咲く）、寒桜、更にいろいろな交配種があります。以前に「いたちかわらばん」で取り上げた話題の桜もあります。

2004 年に横浜市立小学校で総合学習のテーマ「夢いっぱい、友達いっぱい、命いっぱい」で桜グループを選んだ子供たちが身近な多くの人達や専門家の協力を得て岐阜県の庄川村から苗木を送ってもらった由緒ある「荘川桜」。それから、1912 年に友好親善のためにアメリカに送られたワシントンの桜の話と、その植樹に貢献したシドモアさんの名を冠した「シドモア桜」さらに、西行法師と関連があるとも伝わる証菩提寺近くにある桜の古木。ほかにもまだ一般には知られていない伝承があるかもしれません。

「荘川桜」には2013 年に大学生に成長した当時の教え子と担任だった先生との10年ぶりの思いがけない嬉しい出会いがありました。桜が結んだ心のつながり、思いや願いの共有に感動を覚えます。

時代を経てつながっている命、広く関連しながら支えあって続いている生命を大切にして暮らす日々を願っています。

（うぐいす）

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です

## 読者からのたより

“こころの川“

こころに残る風景を投稿者にかわって訪ねてくれる、“こころの旅”と言う NHK テレビ番組があります。今となっては様変わりした思い出の場所を訪ねてくれますが、日本の原風景が残っている発見もあります。

“いたちかわらばん 87 号”の草本勝次氏の 1 文も「こころの風景」が表現され、故郷を懐かしむ気持ちに溢れています。腕白少年の日々を過ごした故郷の歴史ある“外城”は大きく様変わりしました。魚とりや水遊びなど存分に遊ばせてくれた自然はもうありません。ハヤ、タナゴ、フナ、等々、私にとってもなつかしい名前が“こころ”に残っています。

今夏、“荒井沢市民の森”のカエル池で久しく見なかったタニシを見つけました。幼いころ川や田ですくい取って遊んだものです。

こうした蘇ってくる自然の風景を今の子供たちは見つけられるでしょうか。カワセミに出合う川・野鳥の憩う“いたち川”を“ふるさとの川・こころの川”となることを願っています。

菅原恵美子

“木々の銘板、案内板”が欲しい

“いたち川かわらばん“を見てから、週に数回、川べり散歩をしています。

最低気温 8℃条件を得ての川べりの紅/黄葉の美しいこと！そのように設計された賜物と思います。残念ながら木々の名前が分からないので、ネームプレートを付けて置いたらと思いを巡らしています。

昇竜橋経由自然観察の森へ紅葉狩り散策をしたことを、都筑区の友人に話したところ、同じコースを辿り歩いたものの、昇竜橋への下り口がよく分からないまま帰宅したことを聞き、「昇竜橋」の案内標識が欲しいと思いました。　中村

“いたち川かわら版“ありがとうございます。今回は、公園や市民の森を紹介いただき、参考になりました。公園の定義や種類、緑地や市民の森などを勉強でき、学校などでは得られない現場に密着した知識が得られて良かったです。4 か月遅れの発行だそうですが、87 号ということで 20 年以上も続いて凄いですね。今後も地元の身近ないたち川をわかりやすく紹介していただくことを期待しています。　若原俊彦

読者からの便り、有難うございます。今後も感想、助言などをご連絡ください。本文は編集して掲載しております。連絡先は栄区役所区政推進課へ。

### ☆いたち川ウオーキング☆

“飯島市民の森”は、条例が制定され最初の市民の森でその周辺からを水源としている“飯島川”で現在はほとんどが暗渠化されておりますがその周辺に飯島川小川アメニテイが復元しています。

日　時　　令和４年　月　日　10：00

集合場所　JR 本郷台駅前広場（出発 10：30）→市民の森（徒歩約 1.0 ㎞）→飯島市民の森散策→野鳥の森広場→飯島せせらぎ緑道→キリスト協会横→サクラが丘広場→白幡の森広場→長谷戸休憩所（昼食休憩）→大杉窪広場→飯島上町（バス＆徒歩）→本郷台駅解散（20：00 予定）

＊雨天中止。中止の場合は、前日ご連絡します。

集合時間：10：00

参 加 費：100円（保険料等）

持 ち 物：飲み物、雨具、昼食　マスク着用

参加人数：20名（先着順）

参加要領：参加希望者は、葉書、メール、FAXで住所・氏名・ふりがな・電話番号を明記の上、令和４年　月　日（　）までに下記に応募して下さい。（当日消印有効）

応 募 先：〒247 - 0005　栄区桂町303 - 19
（電話）894 - 8161（FAX）894 - 9127
（アドレス）sa-kikaku@city.yokohama.jp
栄区役所区政推進課企画調整係　担当　佐藤

※内容については、和久井（045 - 892 - 6767)まで

発行年月
2022 年 3 月
通刊 88 号

発行：独川 OTASUKE 隊（いたちがわおたすけたい）
OTASUKE 隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係　〒247-0005 横浜市栄区桂町303－19
TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127
（お便り、お問い合わせはこちらまで）
編　集　協　力：栄土木事務所下水道・公園係　TEL 045-895-1411

## 「いたち川の水源」市民の森の紹介　第 2 弾!!

JR 本郷台駅より西方向約 1.0 kmに位置する「飯島市民の森」をご案内いたします。飯島川水源となっている「飯島市民の森」、は愛護会メンバーと地域の人たちによって管理されています。

### 飯島市民の森

飯島市民の森は市内の緑地を保全するため民地を利用した「市民の森」の第一号として 1972 年に開園した市民の森で面積は約 6ha で中規模の大きさです。

当市民の森は、起伏に富んだ散策路ですが一度丘の上に上ってしまえば、丘の上エリアはなだらかで、「白幡の森広場」「大杉窪広場」「サクラが丘広場」「野鳥の森広場」の 4 つの広場とそれを結ぶなだらかな散策路を楽しむことができます。地域の子供たちには、昆虫の宝庫として知られており、豊かな森では様々な昆虫類と出会うことができます。

森の周辺には「飯島せせらぎ緑道」が整備され小川には、生き物観察などをして遊ぶことができます。丘の上の散策路は 800m ほどのなだらかな散策路ですがぐるっと一周するには、丘を登ったり下ったりします。

### 白幡の森広場

丘の上のエリアの西の端にある広場で、広場内には、ベンチ、テーブル、あずまやなどがあり、園内で一番大きい広場です。

### 大杉窪広場

白幡の森広場の反対側にある広場でベンチに座って西側の景色を見ると見事な富士山を眺めることができます。

### サクラが丘広場

広場内には大きな桜の木が 2～3 本植えられており、桜の開花時期にはお花見を楽しむことができます。周りに木々があり周辺の景色を見晴らすことができません。

### 野鳥の森広場

木々に囲まれた広場ではありませんが、小鳥がさえずる声を聴くことができます。

### 飯島せせらぎ緑道

市民の森の北側に沿って流れる小川と緑道で、約 600mの散策路となっています。

水辺にはトンボやメダカ、アメンボーが生息していて観察することができます。

**飯島川**（現在はほとんどが暗渠化されています）

このせせらぎ緑道の小川は柏尾川に流れ込む飯島川の源流で 1980 年代までは度々氾濫した川です。

旧豊田高校周辺一帯、洪水になっていましたが現在は高校の跡地に「飯島第 2 雨水調整地」が設けられて、飯島地区の水を調整していたち川や柏尾川に流出しています。

編集後記

コロナ禍で家に籠る日々が続いて、かわら版発行も定期的に発行できませんが今後も、いたち川に関する情報を発してまいります。ぜひ皆様のご意見やご感想などをお寄せ下さい。　（水・人・子）

### 故郷の川への思い

生まれ育った町には信濃川が流れていた。位置は新潟県の上越で河口から 100km 上流になる。天下の大河、信濃川で遊んだ：等と言うとえーっ！あんな大きな川で…と言われるかもしれないが少々事情が異なる。それは川の対岸に国鉄時代に建設された千手発電所（水力発電）があって上流で水を横取りしているものだから水量が多くないのだ。川床の幅は 300m もあるが水の流れる幅は幾らもない。本流の川幅は 4～50m あるものの本流以外に細流が沢山あって広い河床を何本も流れている。川床には 4～50cm の大きな石がゴロゴロしていてさながら石ころだらけの川なのである。恐らく日本一の大河信濃川の内で一番堂々たる大河らしくない姿がここ十日町を流れる信濃川であろう。その昔氾濫したことも有るのでしっかりと嵩上げされてがっちりとした堤防が川を取り巻いている。

自宅から川までは約 3km 程の距離があって 4.50 分歩かないと着かない。幼時はバスなど使用することはなくて歩きだけだったから川に行けば一日中遊んで家に帰る、というパターンだった。

さて、そこで何をして遊んだのか？というとこれが甚だ原始的な「魚の掴み捕り」なのだ。

上流から下流に向かって片っ端から石を積んでV字形のヤナを作る。ヤナが出来たら上流からバシャバシャ、ガチャガチャと騒ぎまくって魚を追い立てる。V字に仕切られた水の中に魚は走って石の陰に隠れる。そこで石の下に手を突っ込んで魚を掴み捕る。何とも幼稚で、原始的で、悠長な漁法である。どれだけ捕れたかって？大した数ではなかった。魚はオイカワ（ヤマベとも言われる）が圧倒的に多かった。魚捕りとは言っても実際には石を積んで居る時間の方が長かった。子供の遊びに効率性なぞ何の関係もないのだった。

信濃川の右岸の堤防沿いに「50 間（ごじゅっけん）」と呼ばれる大きな溜池があった。（「間」は尺貫法で 1.8m であり 50 間は 90m になる。）表層部には濃い水藻が茂っていて開放水面は少なかったが溜池の底部は川の本流と繋がっているので流れがないだけで水は行き来していて綺麗である。溜池には沢山の魚や水棲生物が棲んでいて恰好の釣り場だった。子供等はここで専らコイやフナを釣って遊んだ。子供たちが使う釣り竿は1本の長さがせいぜい 2～2.5m 位の単なる竹の棒で、それにテグスと浮きと釣り針がセットされていた。

餌はミミズと練り餌だが強力な助っ人があった。それは「サナギ」である。十日町は昔から有名な絹織物の産地だから蚕から繭を作り、絹糸を産する。繭の中にはサナギがいて絹糸を吐き出すのだが糸を取り出せば単なる廃棄物である。このサナギが鯉の大好物なのだ。潰して練り餌に混ぜれば最強の餌となる。生糸を作っている製糸工場に行けばサナギなぞ幾らでもタダで貰えた。

この溜池で目の下 30cm の立派な鯉を釣り上げた。家に持ち帰って黒い木桶に入れて飼っていたが突然の病に倒れ 39℃の熱を出した高校生の兄の足裏に貼って解熱剤としての一生を終えた。近所の婆さんが言うには生きた鯉を足裏に貼ると熱を下げるのだと言う。お蔭かどうか分からないが兄は快方に向かって全快した。

湿布役を終えた鯉がその後どうなったかは覚えがない。或は料理されて腹に収まったのかも知れない。今からおよそ 0.7 世紀も前の昭和 20 年代の話である。令和4年の今、昭和 20 年代は遥か雲の彼方の話で何やら絵本の中の物語のようである。

序で話になるが、この川は信濃（長野県）では信濃川ではなくて「千曲川」と呼ばれ、下って越後（新潟県）に入ると越後川ではなくて「信濃川」になる。即ち、1本の川でありながら上流が「千曲川」、下流が「信濃川」という二つの名前を持つ川なのです。

…何か妙な気がしませんか？

（ピンテール）

［注］「魚の掴み捕り」については「いたちかわらばん」第 50 号に「魚を手で掴む川遊び」という題で掲載したことがあるので参照して下さい。